

愛媛県立中央病院東洋医学研究所活動報告

所 長	山岡 傳一郎
医 師	若松 貴哉
非常勤	光藤 英彦
非常勤	高橋 甫
専攻医	土居 裕和
鍼灸部	玉井 弘文
	山見 宝
	真鍋 昭生
薬 局	赤崎 達子
	山口 祐子
看護部	大下 由実
研修鍼灸師	大宮由起子(鍼灸専攻研修生 5 年目)
	谷村 依里(鍼灸専攻研修生 4 年目)
	中島 貴和(鍼灸専攻研修生 4 年目)
	大塚 素子(鍼灸専攻研修生 3 年目)
	小林 靖 (鍼灸専攻研修生 3 年目)
	田嶋 恵子(鍼灸専攻研修生 3 年目)
	脇口 典子(鍼灸専攻研修生 3 年目)
	山師 侑子(鍼灸専攻研修生 2 年目)
	松原 里美(鍼灸専攻研修生 2 年目)
	寺阪 嘉峰(鍼灸専攻研修生 2 年目)
	近藤 大 (鍼灸専攻研修生 1 年目)
	森 望 (3 月転出)
	茂原 研 (3 月転出)
事 務	島矢 真里

1. 研究所概要と診療状況(開所 30 年にあたり)

1979 年 8 月 20 日に私共の東洋医学研究所が開設された。兵庫県立尼崎病院に続いて全国で 2 番目に公立病院の中にできた東洋医学研究所である。東洋医学を現代医療の中で適切に運用することが設立目的であった。当時、病院内 100 人余りの医師のうち、漢方と鍼灸を使うことのできる医師は一人(初代所長:光藤英彦)のみであった。漢方薬を病院で処方されることでさえ非常に珍しく、しかも、鍼灸ができるなどということはさらに不思議なことであった。開設を発案した当時の県知事は、『愛媛県のいたるところで東洋医学(漢方と鍼灸)を適切に運用できるようにする』ために 1984 年に拡充計画(施設拡充と人員増員)を実行し、現在の場所で現有のスタッフ構成となった。

現在私共の病院には 240 人余りの医師がいる。多くの医師は日常診療で漢方薬を処方するようになった。さらに鍼灸も指導できる医師も 3 人に増えた。ブームとしての東洋医学は終わったが、医師不足、看護師不足、医療資源不足の現代におい

ても、東洋医学を医療の中で運用する意義が残っていることを日々私共は実感している。多くの患者が殺到する病院で、かつての「3 時間待ち 3 分間診療」以上に診療時間は短縮し、検査や投薬は増えるが医療の本質である、癒しや見立て(診断と予後推定)のレベルは向上しにくい。新医師臨床研修制度が開始され、すべての医師が基本的療能力(プライマリーケア能力)や医師としての人格の涵養を求められている今日こそ、心身一如として作用し、しかも効率的である東洋医学が必要であると考えられる。医学部のコア・カリキュラムに東洋医学(「和漢薬の概説」)が取り上げられたことも適切であると思われる。東洋医学の担い手は勿論医師だけではない。近年、鍼灸師養成機関(鍼灸大学など)が増加し、多くの鍼灸師が生まれるようになった。しかし、医師と同様に卒後研修が不可欠であることが指摘される。私共は平成 9 年から、鍼灸卒後研修プログラムをつくり指導に当たっている。最近では、医師不足が深刻な地域医療機関で筋骨格系の問題(腰痛や膝痛)をかかえる多くの患者をケアしなければならない医師を鍼灸師が支援する活動を行っている。私共の研究所で短期研修を受けた整形外科医(自治医大卒 10 年目)が地域に派遣された際に、その医療活動を支援するために鍼灸師を毎月 2 - 4 日派遣するようにした。住民には非常に好評であり、今後も継続拡大していく予定である。

私共の将来目標は、『10 年先に、総合診療能力を兼ね備えた適格医師 100 人と、医師と協力できる適切な能力をもった適格鍼灸師 100 人を愛媛で育てるようにすること』(10-100-100 プラン)である。なお、薬剤師や看護師、および介護にあたるスタッフに東洋医学のエッセンスを伝えることができればよいと考えている。

この 30 年間私共研究所で開発し、実践してきた下記の事項を以上の目的に役立てたい。

- 1) 時系列分析法の開発
- 2) 慢性健康障害患者(QOL 障害患者)への東洋医学の運用
- 3) 穴位主治症の研究(明堂経の復元)
- 4) 古代の四刺法(虚法・泄法・除法・実法)の復元
- 5) 鍼灸卒後研修プログラム/東洋医学専攻医プログラム
- 6) 地域におけるヘルスプロモーション/鍼灸師による僻地医師の活動支援

7) 病棟での鍼灸運用

(Baby Friendly Hospital における乳汁分泌促進支援)

(退院支援プログラム)(がん患者の緩和医療)

なお、私共の病院では多忙を極める診療の中で、体調維持、健康増進のために時間をつくるのが難しいスタッフのために、院内アメニティーとしての『東洋医学体験コーナー』を設置した。毎月、1回、東洋医学の体験ができるコーナーとして設けられた。院内 LAN で職員に周知し、希望者に鍼灸治療を行っており、評判も上々である。平成 19 年度は 210 名、平成 20 年 12 月現在まで 230 名のスタッフに体験していただいた。病院職員のアメニティーの場、職員の健康増進の場、および東洋医学に親しんで頂く場として運営している。東医研スタッフのボランティア精神育成と研修鍼灸師の研修の場としても勿論役立っている。

平成 20 年には第 2 回東洋医学研究所研修交流会を開催した。この会は、昨年度から開催しており、今年度は東洋医学研究所研修 2 期卒の若林秀治先生(現:学校法人神戸滋慶学園・神戸医療福祉専門学校講師)を迎え「鍼灸学校の教育の現状と今後の研修制度のあり方について」と題して講演をいただいた。

今年度は、開所 30 周年を記念して、県民のための公開健康講座と記念講演会を県医師会館で予定して準備を進めている。今後 5 年余りの時間、新病院建設が進むなかで、もう一度将来の適切な医療システムの中での東洋医学運用というテーマを取り上げる予定である。

2. シンポジウム、学会報告、講演会など

原著

- 1) 山岡傳一郎:心身症の鍼灸治療～時系列分析からみた心身症～鍼灸 Osaka. Vol. 24. No. 3/2008
- 2) 山岡傳一郎:便秘について～西洋医学と統合医療の立場から～. 医道の日本. Vol. 67. No. 3. 2008. 3
- 3) 山岡傳一郎:難治の疾患を対象とした鍼灸治療 医師による実践報告 第 1 回チーム医療における癌の鍼灸治療の実践. 医道の日本. Vol. 68. No2. 2009. 2

特別講演・教育講演

- 1) 山岡傳一郎:日本東洋医学会中四国支部香川県部会. 2008. 1. 20
- 2) 山岡傳一郎:日本東洋医学会中四国支部広島県部会. 2008. 1. 27
- 3) 山岡傳一郎:生活習慣病と東洋医学. 宇摩医師会講演会. 2009. 10. 17

- 4) 山岡傳一郎:漢方の歴史. 第 1 回四国漢方セミナー. 2009. 1. 31

一般講演

- 1) 山岡傳一郎・大宮由起子、山見 宝、光藤 英彦:九鍼十二原篇における刺法解明の試み. 第 57 回全日本鍼灸学会学術大会:国立京都国際会館. 2008, 5, 30(2)
- 2) 大宮由紀子・田嶋恵子・山見宝・山岡傳一郎:穴位復元主治条文の検討 3「イ-ジ」を持つための方法論の模索. 第 57 回全日本鍼灸学会学術大会:国立京都国際会館. 2008, 5, 30(2)
- 3) 大宮由紀子・山見宝・山岡傳一郎:患者さん中心の医療を目指して. 第 46 回愛媛県立病院学会:愛南町御荘文化センター. 2008, 11, 1.
- 4) 大宮由起子・山岡傳一郎:不妊症のマイトマップ「明堂経復元主治条文を臨床に応用するために」. 日本鍼灸史学会第 16 回学術大会:京都会館会議場. 2008, 11, 22.
- 5) 大宮由起子:42 歳拳児希望女性の 1 事例. 日本東洋医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会:愛媛県立中央病院研修棟講堂. 2008, 9, 7.
- 6) 田嶋恵子・大宮由起子・山見宝・山岡傳一郎:穴位復元主治条文の検討 1. 第 57 回全日本鍼灸学会学術大会:国立京都国際会館. 2008, 5, 30.
- 7) 田嶋恵子・山見宝:膈俞穴が有効であったと思われる 54 歳男性の 1 症例. 日本東洋医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会:愛媛県立中央病院研修棟講堂. 2008, 9, 7.
- 8) 谷村依里・若松貴哉:逆子に対する鍼灸治療の 1 事例. 日本東洋医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会:愛媛県立中央病院研修棟講堂. 2008, 9, 7.
- 9) 谷村依里・山見宝・山岡傳一郎:生理痛を主訴とする 24 歳女性の 1 事例. 日本鍼灸史学会第 16 回学術大会:京都会館会議場. 2008, 11, 22.
- 10) 大塚素子・山見宝・山岡傳一郎:感染症予防に対する技術と意識向上のための活動報告. 第 59 回日本東洋医学会学術大会:仙台国際会議場. 2008, 6, 6.
- 11) 大塚素子・真鍋昭生・上郷樹夫・山岡傳一郎:皮膚症状を訴える解毒証体質の 4 歳男児の 1 症例. 日本東洋医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会:愛媛県立中央病院研修棟講堂. 2008, 9, 7.
- 12) 脇口典子・山見宝・山岡傳一郎:地域医療における灸療支援活動. 第 57 回全日本鍼灸学会学術大会:国立京都国際会館. 2008, 5, 30.
- 13) 松原里美・山見宝・山岡傳一郎:時系列分析と穴位所見より刺絡が有効と思われた 1 症例. 日

- 本刺絡学会第 17 回学術大会：森ノ宮医療学園
専門学校。2008,6,29。
- 14) 松原里美・田嶋恵子・山見宝・若松貴哉：時系
列分析と穴位所見より刺絡が有効と思われた
1 症例。日本東洋医学会中四国支部第 39 回愛
媛県部会：愛媛県立中央病院研修棟講堂。
2008,9,7。
- 15) 松原里美・山見宝・山岡傳一郎：閉経期及び仕
事のストレスにより頭重感を発症した 53 歳瘀
血体質女性の 1 症例。第 46 回愛媛県立病院学
会：愛南町御荘文化センター。2008,11,1。
- 16) 玉井弘文・若松貴哉：18 歳からの慢性上腹部
痛・胃もたれを主訴とする?血証に解毒証を伴
う 79 歳女性の 1 症例。日本東洋医学会中四国
支部第 39 回愛媛県部会：愛媛県立中央病院研
修棟講堂。2008,9,7。
- 17) 真鍋昭生・末廣佳男・大塚素子・田嶋恵子・谷
村依里・山見宝：病院職員の皆様に快適に過
していただくために「えひめ東医研の新しい試
み」：第 47 回自治体病院学会：福井県産業会館。
2008,10,16。
- 18) 真鍋昭生・大塚素子・高橋甫：「東洋医学と健
康」。高齢者学級：由良公民館。2008,5,27。
- 19) 山見宝・大宮由起子・中島孝和・末廣佳男：「東
洋医学と健康」。高齢者学級：久米公民館：
2008,6,20
- 20) 真鍋昭生・大塚素子・谷村依里・高橋甫：「東
洋医学と健康」。高齢者学級：高浜公民館。
2008,6,30。
- 21) 真鍋昭生・高橋甫：「東洋医学と健康」。高齢者
学級：桑原公民館。2008,7,1。
- 22) 真鍋昭生・大塚素子・高橋甫：「東洋医学と健
康」。高齢者学級：余土公民館。2008,8,20。
- 23) 真鍋昭生・小林靖・田嶋恵子・大宮由起子・山
見宝・山岡傳一郎：「東洋医学と健康」。高齢者
学級：味酒公民館。2008,9,25。
- 24) 真鍋昭生・小林靖：「東洋医学と健康」。高齢者
大学：愛媛県民文化会館別館。2008,9,4。
- 25) 真鍋昭生・大塚素子・谷村依里：病院職員の皆
様に快適に過ごしていただくために。日本東洋
医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会：愛媛県
立中央病院研修棟講堂。2008,9,7。
- 26) 小林靖・山師侑子・寺阪嘉峰・脇口典子：グル
ープホームにおける灸治療報告。日本東洋医学
会中四国支部第 39 回愛媛県部会：愛媛県立中
央病院研修棟講堂。2008,9,7。
- 27) 中島孝和・山見宝・山岡傳一郎：遷延化した腰
椎圧迫骨折後疼痛に委陽が奏功した症例：日本
東洋医学会中四国支部第 39 回愛媛県部会：愛
媛県立中央病院研修棟講堂。2008,9,7。
- 28) 中島孝和・真鍋昭生・山岡傳一郎：末梢性顔面
神経麻痺に刺絡が功を奏したと考えられる 2
症例。日本刺絡学会第 17 回学術大会：森ノ宮
医療学園専門学校。2008,6,29。
- 29) 山見宝・田嶋恵子・大宮由起子・山岡傳一郎：
「穴位復元主治条文の検討」～神道穴の臨床
的検討～：第 57 回全日本鍼灸学会学術大会：
国立京都国際会館。2008,5,30。
- 30) 山見宝・田嶋恵子：えひめ東医研の刺絡(理論
と実技)：日本刺絡学会大阪刺絡基礎講習会：森
ノ宮医療学園専門学校 2008,1。